I-9

インドネシア・バリ島における伝統的集落の構成
伝統的集落全体の構成および住居の構成パターンの分析
The Composition of Traditional Village in Bali, Indonesia
The Analysis Regarding the Composition Pattern of Traditional Village and Houses

○森田光[1]，重枝豊[2]
*Hikaru Morita[1], Yutaka Shigeeda[2]

Bali is in Indonesia. The 90% of Balinese believe Bali Hinduism despite Indonesia having a lot of Muslim. It is thought that the traditional village of Bali is constructed based on a doctrine of Hinduism. there is the idea of "Nawa Sanga" in Bali. "Nawa Sanga" is a way of thinking to join a direction and gods of Hinduism. "Nawa Sanga" is seen in traditional village for example, a holy building is built in the direction of the mountain and a dirty building is built in the direction of the sea. The direction of the mountain is seen as holy and the direction of the sea is seen as dirty. This way of thinking is also seen in the traditional house compounds.

１．はじめに
1.1 バリの伝統的集落について

バリ島はインドネシアにある島であり、本島と周辺の小島から構成される州である。インドネシアは多くをムスリムが占める国家であるのに対して、バリは住民の多くがバリ・ヒンドゥーという宗教を信仰する、インドネシアの中でも特異な州である。バリ・ヒンドゥーは、インドから伝わったヒンドゥーと土着の宗教が混ざりあったものであり、教義などにはインドのヒンドゥーのものが多く見られる。その考え方の一つにナワサンガというものがあり Fig.1 のように山側の方角と海側の方角、また太陽の昇る方角と沈む方角によって決められる。このことから Fig.2 のように島の北部と南部では方位が逆転するという特徴がある。バリでは山側の方角を神聖な方角、海側の方角を不浄な方角とし、太陽の昇る方角を神聖な方角、沈む方角とすることから、山側で太陽の昇る方角を最も神聖な方角とする考え方がある。この考え方は村の構成および住居においても見ることができる。既往研究においても、村と住居のバリ・ヒンドゥーとの関係が挙げられており、Fig.3 は伝統的集落の構成であり、Fig.4 は伝統的住居の典型について説明した図である。この図の中でもバリ・ヒンドゥーの考え方と集落の関係が見えてくる。

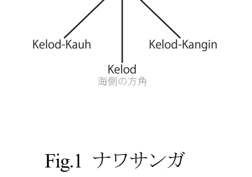

Fig.1 ナワサンガ

Fig.2 バリ島内における方位の反転

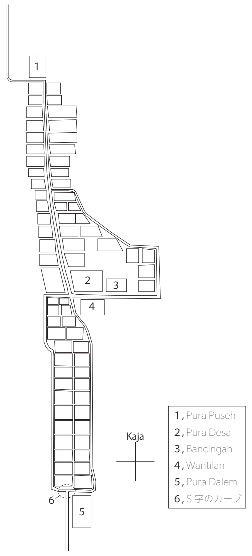

Fig.3 伝統的集落の構成

(Julian Davison, Balinese Architecture, Tuttle, 2003, P23)

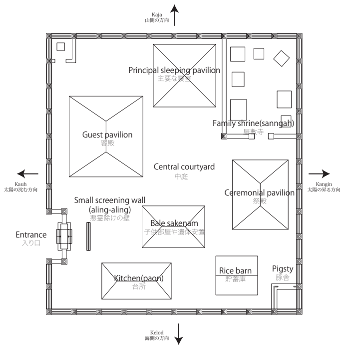

Fig.4 伝統的住居の構成

(Made Wijaya, Architecture of Bali, Thames and Hadson, 2002, P30)

1.2 研究の目的

この研究の目的はバリ島における伝統的集落の実態を明らかにすることである。

既往研究ではバリ・ヒンドゥーと伝統的集落の構成の関係が研究されているが、現地調査を行い、伝統的集落は Fig.3 や fig.4 に見られる典型的な形状だけでなく、土地形状が異なったり、住居の中の建物の配置方法が異なるものが多く存在していることがわかった。そこでバリの伝統的集落は単に教義に基づいて構成されているのではなく、環境要素や地形も関係しているのではないかと考えた。また現在、提唱されている典型例以外の形式を調査することで、今後に文化を継承することにもつながるのではないかと考える。

１：日大理工・学部・建築　２：日大理工・教員・建築

1.3 研究方法

伝統的形態を残しているとして政府に保存されているパンリプラン村、および伝統的な形式が保存されている小規模な村を対象に、村全体および住居を現地調査する。その結果を平面図化し、周辺環境や地形図を参考に、形式を分類することで、考察する。

２．調査結果

2.1 パンリプラン村について

Fig.5 パンリプラン村

6 月 15 日から 6 月 30 日に行った現地調査では、パンリプラン村の配置調査と住居の構成調査を行った。パンリプラン村はバンリ県の中心地から約５キロの場所に位置し、標高は約 1000m の場所にある。周囲を竹林や森林に囲まれていて、傾斜地を持つ山岳型の土地である。元々は現在の村から 14 キロの場所にあったバユングデ村が、バンリ王朝の時代に移住を許され移動してきた村である。そのため当時の村を模して作られたと言われている。

2.2 パンリプラン村の構成調査の結果

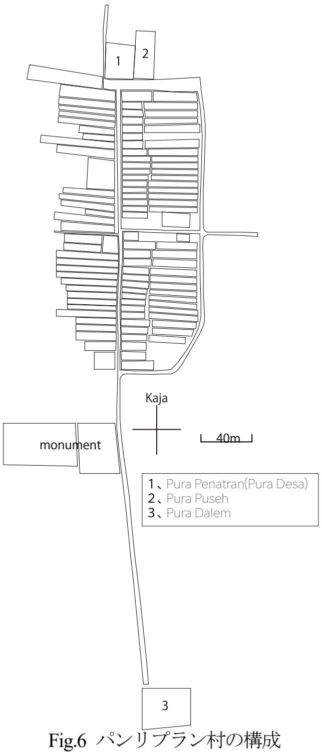

Fig.6 パンリプラン村の構成

Fig.6 はパンリプラン村の構成を図化したものである。最も山側には神聖な寺院と、住民がお祈りをするための寺が建てられ、最も不浄な海側の方角には、死者の寺が建てられている。典型的な集落では村の中心部の交差点に住民がお祈りをする寺が位置することが多いが、この村では神聖な寺の横に建てられている。また住居の敷地に注目すると、典型的な集落の図(Fig.3)と比較して横に細長い形状を持つ敷地が多いことがこの図からわかる。

2.3 パンリプラン村の住居の構成調査の結果

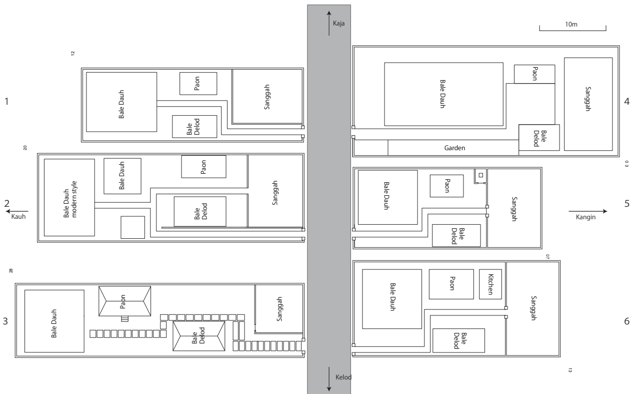

Fig.7 パンリプラン村の住居の構成

既往研究では住居は正方形に近い形状を持つ典型例であったが、パンリプラン村では上記のように横に長い長方形の形状を持つ土地であった。また、住居内の配置形式も複数の形式が見られた。Fig.7 は調査を行った６戸の住戸を平面図化し、並べたものである。この村では３つのタイプが見られた。１、３を A タイプ、２を B タイプ、４、５、６を C タイプとする。A タイプは通路を挟んで西側に多く見られた形式で、山側で太陽の昇る方向に屋敷寺を持ち、中央の山側には台所、海側には作業をしたりする場所が配置され、最も西側には寝殿が設けられている。この配置構成はどの住居形式でも同じである。異なる点は B タイプでは通路が一度奥へと導いたのちに、二股に通路が分かれていることである。C タイプは通路の東側に位置している住居に多く見られた形式であり、入口が A タイプとは異なり西向きにある。しかし住居内の建物を配置する方向を叶えるために通路の配置や建物の形状を変えていることがわかる。以上のことから、住居内において寝殿や、屋敷寺、台所などの建物の方位に対する配置はどの住居形式においても揃えられており、入口や通路の配置が異なることで、住居の配置形式が異なるということが考察できる。

３．今後の展望

今後の調査では、海沿いの村や平地部の村を調査することで、地形による住居敷地の違いや、敷地形状による建物の配置の違いなどを明らかにすることができると考えている。

４．参考文献

[1] Julian Davison: Balinese Architecture,TUTTLE, 2003
[2] Made Wijaya: Architecture of Bali -A sourcebook of traditional & modern forms- ,Thames&Hudson,2002
[3] 小野邦彦　ジャワおよびバリのヒンドゥー教建築に見る「方位神」の観念の変遷過程について　2002 年 1 月
[4] 中岡義介　バリ島巡礼　鹿島出版会　2016 年